

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編

第1章 総説

第2節 保健体育科改訂の趣旨及び要点

2 保健体育科改訂の要点

(3) 内容及び内容の取扱いの改善

「保健」

ア 「保健」の内容

「保健」の内容については、個人及び社会生活における健康・安全に関する理解を通して健康についての総合的な認識を深め、保健の見方・考え方を働かせ、生涯を通じて自他や社会の健康に関する課題を解決していくための資質や能力の育成を図ることに重点を置き、小学校、中学校の内容を踏まえた系統性のある指導ができるよう、次のような改訂を行った。

また、指導に当たっては、心と体を一体的に捉えるとともに、「保健」と「体育」の内容を密接に関連付けて取り扱うよう配慮するものとした。

イ 内容の構成

内容のまとまりについては、個人及び社会生活における健康課題を解決することを重視する観点から、従前の「現代社会と健康」、「生涯を通じる健康」及び「社会生活と健康」の3項目を「現代社会と健康」、「安全な社会生活」、「生涯を通じる健康」及び「健康を支える環境づくり」の4項目とした。内容については、個人及び社会生活に関する事項を正しく理解し、思考・判断・表現できるようにするため、他教科及び小学校、中学校の内容との関連を考慮して高等学校における基礎的事項を明確にした。

具体的には、個人及び社会生活における健康課題を解決することを重視する観点から、精神疾患やがんを含めた生活習慣病などの現代的な健康課題の解決に関 わる内容、応急手当の技能を含めた安全な社会生活

に関する内容，ライフステージにおける健康の保持増進や回復に関わる内容及び人々の健康を支える環境づくりに関する内容等を充実した。その際，心身の健康の保持増進の実践力を育成するため，単なる暗記や知識理解にとどまらず，自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもてるようにし，健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れるなど，保健の資質や能力が育成されるよう指導方法の工夫を行うとともに，適切な意思決定や行動選択及び健康を支える環境づくりが必要であることを示した。

ウ 現代社会と健康

「現代社会と健康」については，我が国の疾病構造や社会の変化に対応して，健康課題や健康の考え方が変化するとともに，様々な健康への対策，健康増進の在り方が求められていることを踏まえて，現代における健康課題とその予防及び対策について内容を整理し充実した。

その際，国民の健康課題や健康の考え方を充実して示すとともに，現代の感染症とその予防，生活習慣病などの予防と回復，喫煙，飲酒，薬物乱用と健康について項目を立てて充実することとした。特に生活習慣病などの予防と回復にがんを取り上げるとともに，精神と健康の内容を改善し，精神疾患の予防と回復の内容を新しく示し，より現代における健康課題に対応することとした。

なお，従前示されていた交通安全と応急手当については，新しい内容のまとめりである「安全な社会生活」に移動することとした。

エ 安全な社会生活

「安全な社会生活」については，小学校，中学校の系統性及び安全に関する指導を重視する観点から，新たに示すこととした。その際，従前「現代社会と健康」に示されていた交通安全と応急手当に関する内容を重視するとともに，高等学校の個人及び社会生活に関する健康・安全を重視する観点から，交通安全を含めた安全な社会づくりを明確にした。また，

心肺蘇生法等の応急手当についての技能の内容を明確にした。

オ 生涯を通じる健康

「生涯を通じる健康」については、従前の内容を踏まえて、生涯にわたって健康を保持増進していくためには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理と環境づくりが重要であることを示した。

また、従前「社会生活と健康」に示されていた労働と健康について、生涯の各段階と関連が深いことから、ここに位置付けた。

なお、これまで「生涯を通じる健康」に示されていた保健・医療制度及び地域の保健・医療機関などの活用や様々な保健活動に関する内容は、自然環境、社会環境を含めた「健康を支える環境づくり」の内容に移動することとした。

カ 健康を支える環境づくり

「健康を支える環境づくり」については、自然環境だけでなく、個人を取り巻く社会の制度、活動などの社会環境などが深く関わっている。したがって、すべての人が健康に生きていくためには、個人が健康的な行動を選択するとともに、環境と健康、食品の安全性の確保のための環境づくりや保健・医療機関等の社会環境の活用を推進していくことが必要であるという考え方を重視し、内容を整理し明確にした。具体的な内容としては、従来「社会生活と健康」に示されていた自然環境を中心とした環境と健康、食品と健康を引き続き示すとともに、社会環境に関することとして、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関などの適切な活用、我が国や世界において様々な保健活動や対策などが行われていることについての内容を、ここに位置付けた。さらに、健康に関する環境づくりと社会参加に関する内容を新たに位置付けた。